

# 小川正廣教授略歴・業績

## 〈略 歴〉

昭和26年10月12日 京都市に生まれる

## 学 歴

昭和45年3月 大阪府立大手前高等学校卒業  
昭和50年3月 京都大学文学部卒業（西洋古典語学西洋古典学文学専攻）  
昭和52年3月 京都大学大学院文学研究科修士課程修了（西洋古典語学西洋古典学文学専攻）  
昭和54年3月 京都大学大学院文学研究科博士後期課程退学（西洋古典語学西洋古典学文学専攻）

## 職 歴

昭和54年4月 京都大学文学部助手（西洋古典語学西洋古典学）  
昭和57年4月 京都産業大学教養部専任講師  
昭和61年4月 京都産業大学教養部助教授  
平成1年4月 京都産業大学国際言語科学研究所兼任助教授  
平成2年4月 名古屋大学文学部助教授（西洋古典学）  
平成8年3月 名古屋大学文学部教授（西洋古典学）  
平成12年4月 名古屋大学大学院文学研究科教授（西洋古典学）に配置換（現在に至る）  
平成14年4月 名古屋大学総長補佐（兼務、平成18年3月まで）

## 学 位

昭和52年3月 文学修士（京都大学）「ウェルギリウスにおけるルクレティウスの影響」  
平成4年11月 博士（文学）（京都大学）「ウェルギリウス研究」

## 共同・客員研究員

国立民族学博物館（昭和58年度～平成5年度）、オックスフォード大学ベリオール・カレッジ（昭和62年8月～昭和63年9月）、ロンドン大学古典学研究所（平成9年1～9月）、東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所（平成16～21年度）、中央大学人文科学研究所（平成27年～現在）

### 非常勤講師

大阪経済法科大学（仏語、昭和52～53年度）、同志社女子大学（ラテン語、昭和55年度～平成2年度）、光華女子大学（仏語、昭和56～61年度）、京都産業大学（英語、昭和56年度、平成2年度）、京都大学（西洋古典語学・文学、昭和57～61年度、平成1年度、平成10年度）、名城大学（美学、平成7～10年度）、名古屋市立大学（文学概論、平成8年度）、金沢大学（西洋古典学、平成8年度、21年度）、九州大学（西洋古典学、平成13年度）、NHK文化センター（名古屋、岐阜：教養講座、平成5年度～現在）

### 〈業 績〉

#### 単 著

- 1 『ウェルギリウス研究—ローマ詩人の創造』 京都大学学術出版会、1994年、600頁
- 2 『ウェルギリウス『アエネーイス』—神話が語るヨーロッパ世界の原点』 岩波書店、2009年、191頁

#### 単 訳

ウェルギリウス『牧歌／農耕詩』、京都大学学術出版会、2004年、279頁

#### 共 著

- 1 『ことば遊びの民族誌』（江口一久編）、大修館書店、1990年
- 2 『ラテン文学を学ぶ人のために』（松本仁助・岡道男・中務哲郎編）、世界思想社、1992年
- 3 『週刊朝日百科 世界の文学』第1巻53号（小川正廣責任編集）、朝日新聞社、2000年
- 4 『世界の神話101』（吉田敦彦編）、新書館、2000年
- 5 『ギリシア世界からローマへ—転換の諸相』（地中海文化を語る会編）、彩流社、2001年
- 6 『“文明”とは何か、“野蛮”とは何か—新しい人文学の構築をめざして』（阿部泰郎・小川正廣編）、名古屋大学大学院文学研究科、2001年
- 7 『文字をよむ』（池田紘一・今西祐一郎編）、九州大学出版会、2002年
- 8 『ギリシア・ローマ世界における他者』（地中海文化を語る会編）、彩流社、2003年
- 9 『岩波講座 文学1—テキストとは何か』（小森陽一・富山太佳夫・沼野充義・兵藤裕己・松浦寿輝編）、岩波書店、2003年
- 10 『Newton ムック 古代世界 四つの遺産』（青柳正規・小川正廣他11名執筆）、ニュートンプレス、2008年
- 11 『テキストの解釈学』（松澤和宏編）、水声社、2012年
- 12 『続 英雄詩とは何か』（中央大学人文科学研究所編）、中央大学出版部、2017年

#### 共 訳

- 1 『セネカ 悲劇集』1、京都大学学術出版会、1997年
- 2 『キケロー選集』第3巻、岩波書店、1999年
- 3 『キケロー選集』第2巻、岩波書店、2000年

- 4 『ブラウトゥス ローマ喜劇集』1、京都大学学術出版会、2000年
- 5 『ブラウトゥス ローマ喜劇集』2、京都大学学術出版会、2001年
- 6 『キケロー弁論集』岩波文庫、2005年
- 7 『セネカ哲学全集』第2巻、岩波書店、2006年

## 論文

- 1 「古代ローマにおけるアエネアス伝説の意義」(上)(下)、『古代文化』31、古代学協会、第1号：pp. 1-13、第2号：pp. 1-20、1979年
- 2 「Archaeologia Vergiliana —アエネアス伝説と女神信仰」、『西洋古典論集』1、京都大学西洋古典研究会、pp. 41-66、1979年
- 3 「ウェルギリウスとローマの起源—『アエネイス』後半について」、『地中海学研究』4、地中海学会、pp. 31-52、1981年
- 4 「ウェルギリウスにおける牧歌の革新—*Bucolica* Iの冒頭の詩句をめぐって」、『古典古代における伝統の継承と革新』、京都大学西洋古典研究室、pp. 57-81、1982年
- 5 「ウェルギリウスの『エクログ』6歌とテオクリトス」、『西洋古典学研究』31、日本西洋古典学会・岩波書店、pp. 66-81、154-156、1983年
- 6 「古代ギリシアにおける文字使用」、『民博通信』23、国立民族学博物館、pp. 59-65、1984年
- 7 「ホメロスの詩と文字使用」、『国立民族学博物館研究報告』9-3、pp. 609-630、1984年
- 8 「ウェルギリウスとヘリコンのムーサー—『ゲオルギカ』3巻の序歌をめぐって」、『京都産業大学論集』14-4、pp. 1-47、1985年
- 9 “DOLOR / DOLEO”, *Enciclopedia Virgiliana*, T. 2, Istituto della Enciclopedia Italiana, Roma, pp. 121-122, 1985年
- 10 「詩と文字使用—ホメロスをめぐって」、『京都産業大学国際言語科学研究所所報』7-2、pp. 90-115、1986年
- 11 「オックスフォード大学の古典学の側面」、『京都産業大学国際言語科学研究所所報』10、pp. 178-197、1987年
- 12 “Virgil and the Muses of Helicon: On the Proem of the Third *Georgic*”, *Filologia e Forme Letterarie: Studi Offerti a Francesco della Corte*, Vol. II, Università degli Studi di Urbino, Italia, pp. 439-456, 1987年
- 13 「ウェルギリウスにおける詩と自然観」、『ウェルギリウス・シンポジウム』、ギリシア・ラテン文学研究会、pp. 61-87、1987年
- 14 「オックスフォードの古典学と古典教育—歴史と現状」、『西洋古典論集』6、京都大学西洋古典研究会、pp. 89-117、1989年
- 15 「中世におけるラテン語写本について」、『京都産業大学国際言語科学研究所所報』11、pp. 53-79、1990年
- 16 「アイルランドと古典学の伝統」、『京都産業大学国際言語科学研究所所報』11、pp. 210-235、1990年
- 17 「ギリシャ・ローマ世界におけることば遊び」、『ことば遊びの民族誌』、大修館書店、pp. 15-56、1990年

- 18 「アイルランドと古典学の伝統」、『第11回日本ケルト学会議報告』、pp. 20-21、1990年
- 19 「死と神格化—ローマ人の「英雄崇拜」について」、『古代ローマの「死」についての総合的研究』、名古屋大学西洋史研究室、pp. 13-45、1991年
- 20 「叙事詩人のエートス—ホメロスとウェルギリウス」、『名古屋大学文学部研究論集』109、pp. 149-190、1991年
- 21 「ギリシア悲劇の本のかたち」、『ギリシア悲劇全集月報』10、岩波書店、pp. 4-7、1991年
- 22 「叙事詩における神々—ウェルギリウスの『アエネイス』について」、『名古屋大学文学部研究論集』112、pp. 165-193、1992年
- 23 「『黄金時代』の再来は可能か—ヘシオドスとウェルギリウス」、『ギリシア・ローマ神話の宗教性と文芸性の研究』、京都大学西洋古典研究室、pp. 102-145、1992年
- 24 「ウェルギリウス」、『ラテン文学を学ぶ人のために』、世界思想社、pp. 102-122、1992年
- 25 「ウェルギリウス評価の変遷—古代から現代まで」、『名古屋大学文学部研究論集』115号、pp. 215-233、1993年
- 26 「岡先生とラテン文学」、『西洋古典論集』11、京都大学西洋古典研究会、pp. 15-23、1994年
- 27 「西洋の父ウェルギリウス」、『地中海学会月報』178、pp. 6-7、1995年
- 28 「『アエネイス』における英雄と死」、『西洋古典学研究』43、日本西洋古典学会・岩波書店、pp. 75-86、169-171、1995年
- 29 「民話から叙事詩へ—アキレウスの選択とポイニクスの訓話（『イリアス』第9巻）」、『名古屋大学文学部研究論集』124、pp. 183-218、1996年
- 30 「叙事詩における洪水伝承の変容—メソポタミア、ギリシア、ローマ」、『古代ギリシア・ローマ文学の伝承形態の研究』、名古屋大学西洋古典学研究室、pp. 3-65、1996年
- 31 「ウェルギリウスの創造をめぐって」、『西洋古典学研究』44、日本西洋古典学会・岩波書店、pp. 192-194、1996年
- 32 「ミュートスからロゴスへ?」、『学術の動向』1-9、日本学術協力財団、pp. 90-91、1996年
- 33 「『運命の秤』についての一考察—ホメロスとオリエント宗教」、『名古屋大学文学部研究論集』127、pp. 159-177、1997年
- 34 「『狂えるヘルクレス』作品解説」、『セネカ 悲劇集』1、京都大学学術出版会、pp. 428-433、1997年
- 35 「西洋叙事詩論の視点から見た『平家物語』—ホメロスおよびルカヌスとの比較を通して」、『平家物語 批評と文化史』、汲古書院、pp. 107-131、1998年
- 36 「オイディプスと神託—ギリシア悲劇と民話」、『名古屋大学文学部研究論集』133、pp. 15-44、1999年
- 37 「『カティリーナ弾劾』解説」、『キケロー選集』第3巻、岩波書店、pp. 481-496、1999年
- 38 「オイディプスの呪い—叙事詩と悲劇」、『名古屋大学文学部研究論集』136、pp. 9-53、2000年
- 39 「トロイア陥落とアエネアスの地中海放浪」「アエネアスの冥界下りとイタリアでの戦争」「ローマ建国者ロムルの物語」「ホラティウス兄弟の誓い」「ウェルトゥムヌスとピクスの変身物語」「クビドとプシュケの愛」、『世界の神話101』、新書館、pp. 81-93、2000年

- 40 「多民族社会で鍛えられたローマ文学の中から「西洋」がめばえた」「ウェルギリウス『アエネイス』—神話に託したローマの運命」「パルナッソスに集う詩人たち」「文学小事典」、『週刊朝日百科 世界の文学』1-53、朝日新聞社、pp. 66-67, 68-72, 80-81, 94-96、2000年
- 41 「『フラックス弁護』解説」、『キケロー選集』第2巻、岩波書店、pp. 463-480、2000年
- 42 「『バッキス姉妹』作品解説」、『プラウトゥス ローマ喜劇集』1、京都大学学術出版会、pp. 507-513、2000年
- 43 「岡先生と『オイディプス王』」、『西洋古典論集』別冊、京都大学西洋古典研究会、pp. 123-128、2001年
- 44 「ギリシア・ローマにおける文明と野蛮—異民族観を中心に」、『“文明”とは何か、“野蛮”とは何か』、名古屋大学大学院文学研究科、pp. 57-64、2001年
- 45 「『クルクリオ』作品解説」、『プラウトゥス ローマ喜劇集』2、京都大学学術出版会、pp. 464-470、2001年
- 46 「古代地中海世界から21世紀へのメッセージ」、『ギリシア世界からローマへ』、彩流社、pp. 9-22、2001年
- 47 「ホメロスからウェルギリウスへ—「自由」の意味の転換」、『ギリシア世界からローマへ』、彩流社、pp. 189-222、2001年
- 48 「西洋における言葉と文字—ギリシア・ラテン語」、『文字をよむ』、九州大学出版会、pp. 175-182、2002年
- 49 「オイディプスと「宿命の子」の民話」、『オイディプスをめぐる悲劇作品と伝説—運命論の展開』（日本独文学会研究叢書12）、pp. 32-43、2002年
- 50 「キケローの死と二つの祖国」、『キケロー選集月報』16、岩波書店、pp. 8-15、2002年
- 51 「古代世界の言葉遊び」、『月刊 言語』32-2、大修館書店、pp. 66-71、2003年
- 52 「西洋における近代古典学の成立と発達—批判的素描」、『論集 古典学の再構築』（「古典学の再構築」研究成果報告集I）、pp. 239-251、2003年
- 53 「西洋古典のカノン—初期ギリシアにおけるホメロスの詩の選定をめぐって」、『論集 伝承と受容（世界）』（「古典学の再構築」研究成果報告集VI）、pp. 60-70、2003年
- 54 「口誦伝統と文字テキスト—ホメロスをめぐって」、『岩波講座 文学』1、岩波書店、pp. 17-39、2003年
- 55 「ギリシア・ローマ世界と他者との対話」、『ギリシア・ローマ世界における他者』、彩流社、pp. 9-20、2003年
- 56 「他者イメージの変容—ローマ喜劇と恋愛詩における奴隷と女性」、『ギリシア・ローマ世界における他者』、彩流社、pp. 279-329、2003年
- 57 「オイディプスと民話」、『西洋古典における民話にもとづく文学創造の研究』、名古屋大学西洋古典学研究室、pp. 3-69、2005年
- 58 「『寛恕について』解説」、『セネカ哲学全集』第2巻、岩波書店、pp. 499-509、2006年
- 59 「『恩恵について』解説」、『セネカ哲学全集』第2巻、岩波書店、pp. 511-524、2006年
- 60 「松平先生とホラティウス流」、『西洋古典論集』別冊、京都大学西洋古典研究会、pp. 118-120、2007年

- 61 「他者との共生へ向かう文明としてのギリシア・ローマ」、『総合人間学叢書』2、東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所共同研究プロジェクト「地球文明時代の世界理解と新しい倫理・人間観の研究」、pp. 59-63、2007年
- 62 「ウェルギリウス『アエネイス』—作品と後世への影響」、『日本英文学会第79回大会 Proceedings』、pp. 167-169、2007年
- 63 「ダンテにおけるウェルギリウス—『神曲』は叙事詩か」、『名古屋大学文学部研究論集』157、pp. 1-24、2008年
- 64 “War and Peace in Homer and Virgil”, *The Proceedings of the Korean Society of Greco-Roman Studies: 2008 Winter Symposium*, Seoul, pp. 1-15, 2008年
- 65 “War and Peace in the *Iliad* and the *Aeneid*”, *The Journal of Greco-Roman Studies*, 36, the Korean Society of Greco-Roman Studies, pp. 1-22, 2009年
- 66 「古代叙事詩における戦争と平和—ホメロスとウェルギリウス」、『名古屋大学文学部研究論集』160、pp. 1-29、2009年
- 67 「ギリシア・ローマ文学における他者像の変容」、『ギリシア・ローマ文学における他者像の変容に関する研究』、名古屋大学西洋古典学研究室、pp. 3-64、2009年
- 68 「ウェルギリウス『アエネイス』におけるトロイア伝説とその受容」、『日本英文学会第81回大会 Proceedings』81、pp. 185-187、2009年
- 69 「パトレットの頭部と母なるヴィーナス」、『映紅』45、葵美術グループ、pp. 17-18、2010年
- 70 「「文字の力」趣旨と総括、文字使用と手紙」、『西洋古典学研究』58、日本西洋古典学会・岩波書店、pp. 110-112, 117-120、2010年
- 71 “Xu Guangqi and the Chinese Translation of Euclid’s *Elements*: Some Problems of Terminology and Their Cultural Context”, *HERSETEC*, 5-1、名古屋大学グローバルCOEプログラム「テキスト布置の解釈学的研究と教育」、pp. 13-33、2011年
- 72 「中国における西洋古典の受容—徐光啓とユークリッド『原論』の漢訳と解釈」、『テキストの解釈学』、水声社、pp. 203-235、2012年
- 73 「メゼンティウスと日本鬼子（リーベン・クイズ）—ウェルギリウスの叙事詩と日本兵の歴史的体験に関する比較考察」、『名古屋大学文学部研究論集 文学』59、pp. 1-36、2013年
- 74 「ウェルギリウス『アエネイス』の結末と戦争の罪責」、『名古屋大学文学部研究論集 文学』60、pp. 1-36、2014年
- 75 「ホメロスの環は閉じられない—古代叙事詩の再生をめぐって(1)」、『名古屋大学文学部研究論集 文学』61、pp. 9-36、2015年
- 76 「ホメロスの環は閉じられない—古代叙事詩の再生をめぐって(2)」、『名古屋大学文学部研究論集 文学』62、pp. 1-36、2016年
- 77 「ホメロスの復権とアキレウスの盾」、『図書』807、岩波書店、pp. 28-32、2016年
- 78 「ホメロスの叙事詩の評価をめぐって—古代から現代までの受容の問題」、『続 英雄詩とは何か』（中央大学人文科学研究所研究叢書64）、pp. 51-88、2017年

## 書評

- 1 「R. Lesueur, *L'Énéide de Virgile*」、『西洋古典学研究』27、日本西洋古典学会・岩波書店、pp. 96-99、1979年
- 2 「R. R. Schlunk, *The Homeric Scholia and the Aeneid*」、『西洋古典学研究』28、日本西洋古典学会・岩波書店、pp. 107-109、1980年
- 3 「R. Schilling, *Rites, Cultes, Dieux de Rome*」、『西洋古典学研究』30、日本西洋古典学会・岩波書店、pp. 114-117、1982年
- 4 「Ph. R. Hardie, *Virgil's Aeneid. Cosmos and Imperium*」、『西洋古典学研究』36、日本西洋古典学会・岩波書店、pp. 101-104、1988年
- 5 「松本仁助『ギリシア叙事詩の誕生』」、『西洋古典論集』7、京都大学西洋古典研究会、pp. 122-123、1990年
- 6 「W. V. Harris, *Ancient Literacy*; R. Thomas, *Oral Tradition and Written Record in Classical Athens*」、『西洋古典学研究』41、日本西洋古典学会・岩波書店、pp. 116-119、1993年
- 7 「川島重成『『イーリアス』 英雄叙事詩の世界』をめぐって」(共著)、『ペディラヴィウム』37、ペディラヴィウム会出版会、pp. 17-35、1993年
- 8 「Ph. R. Hardie, *The Epic Successors of Virgil*」、『西洋古典学研究』42、日本西洋古典学会・岩波書店、pp. 105-107、1994年
- 9 「D. T. Steiner, *The Tyrant's Writ. Myths and Images of Writing in Ancient Greece*」、『西洋古典学研究』44、日本西洋古典学会・岩波書店、pp. 146-148、1996年
- 10 「Naoko Yamagata, *Homeric Morality*」、『地中海学研究』19、地中海学会、pp. 93-101、1996年

## その他

- 1 「シチリアー文明の十字路」、『地中海学会月報』32、pp. 6-7、1980年
- 2 『世界伝記大事典』全12巻、ラテン作家に関する外国語文献の翻訳・校閲(本文協力)、ほるぷ出版、1981年
- 3 『日本大百科全書』全25巻、ギリシア・ローマ神話関係記事80項目、小学館、1984~1989年
- 4 『小学館ロベール大仏和辞典』、語源、ギリシア・ラテン成句、ギリシア語・ラテン語系接辞、アルファベット執筆担当、1988年
- 5 「〈私の研究ノート〉パピルスと羊皮紙」、『京都産業大学学報』165、p. 2、1988年11月
- 6 「素顔の大学—オックスフォード大学」、『プラス1』11、京都産業大学教職員労働組合、p. 1、1989年6月
- 7 「名古屋大学シンポジオン—名称の由来」、『名古屋大学学報』342、p. 11、1992年
- 8 「『ウェルギリウス研究』を出した小川正広さん」(インタビュー記事)、『中日新聞』夕刊、1994年4月15日
- 9 「日本の西洋古典学」、『中日新聞』夕刊、p. 6、1994年6月1日
- 10 『世界文学大事典』全6巻、「アウグストゥス時代の文学、アモエバエア詩、アルファベット、エピグラフィー(ギリシア・ローマの)、カエサル、教訓文学(古代における)、写字

- 生、テキスト・クリティック（ギリシャ・ローマにおける）、ドナトゥス、パピルス、ヒエロニムス、ポエティウス、牧歌詩（ギリシア・ローマの）、リウイウス、ルクレティウス」の各項目、集英社、1996年
- 11 「怒濤のプロフェッサー」第12回（インタビュー記事）、『名古屋大学新聞』799・800、p. 3、1996年6月27日
  - 12 「国際ギリシア神話シンポジウムに出席して」、『西洋古典学研究』45、日本西洋古典学会・岩波書店、p. 201、1997年
  - 13 「ローマ詩人ウェルギリウスの肖像」、『名古屋大学学報』368、pp. 1-2、1998年
  - 14 「オリピックの起源と神話」、『中日新聞』夕刊、p. 7、1998年2月18日
  - 15 「西洋の源流に聳えたつ巨人―教養尊ぶキケローの思想〈フーマニタス〉に学ぶ」、『中日新聞』夕刊、p. 11、1999年10月21日
  - 16 「岡道男先生を偲んで」、『以文』43、京大以文会、pp. 12-15、2000年
  - 17 「大英博物館・古代エジプト展を楽しく観よう」（おはよう東海・金曜トーク）、日本放送協会名古屋放送局放映、2000年4月21日
  - 18 『世界文学事典』全1巻、「アルファベット、エピグラフィー（ギリシア・ローマの）、カエサル、教訓文学（古代における）、テキスト・クリティック（ギリシャ・ローマにおける）、ドナトゥス、パピルス、ヒエロニムス、ポエティウス、牧歌詩（ギリシア・ローマの）、リウイウス、ルクレティウス」の各項目、集英社、2002年
  - 19 「現代中国における古典ギリシア語・ラテン語テキストの研究と教育」、『テキスト布置の解釈学的研究と教育 GCOE Newsletter』10、p. 11、2010年
  - 20 「ローマ神話と歴史の傷跡」、『月刊名大文学部』42、p. 1、2013年

#### 国際学会招待講演

- 1 “War and Peace in Homer and Virgil”, International Symposium of the Korean Society of Greco-Roman Studies, Soongsil University, Seoul, South Korea, 2008年12月13日
- 2 “War and Peace in Ancient Greek and Roman Epic Literature”, International Seminar of the Institute for the History of Ancient Civilizations (IHAC), Northeast Normal University, Changchun, People’s Republic of China, 2010年7月7日

#### 国内口頭発表・講演

73件（省略）

#### 科学研究費による研究

##### A. 研究代表

- 1 「ウェルギリウスにおける神話と歴史」、奨励研究(A)、1981年度
- 2 「ギリシア・ローマ抒情詩の韻律の研究」、奨励研究(A)、1983年度
- 3 「ギリシア・ローマ文学における文字使用の研究」、奨励研究(A)、1984年度
- 4 「ウェルギリウス研究―ローマ詩人の創造」、研究成果公開促進費・学術図書、1993年度
- 5 「古代ギリシア・ローマ文学の伝承形態の研究」、一般研究(C)、1993～1995年度
- 6 「古代ギリシア・ローマ叙事詩における民間伝承の研究」、基盤研究(C)、1996年度



- 7 「ギリシア・ローマ古典文学における神託の概念と機能の研究」、特定領域研究、2001～2002年度
- 8 「西洋古典における民話にもとづく文学創造の研究」、基盤研究(C)、2001～2003年度
- 9 「ギリシア・ローマ文学における他者像の変容に関する研究」、基盤研究(C)、2004～2007年度
- 10 「ギリシア・ローマ文学における他者との共生に関する研究」、基盤研究(C)、2008～2012年度
- 11 「ギリシア・ローマ文学における他者への罪責と赦しの研究」、基盤研究(C)、2013年度～現在

#### B. 研究分担

- 1 「古典古代における伝統の継承と革新」、総合研究(A)、研究代表者・岡道男、1979～1981年度
- 2 「ギリシア・ローマ神話の形成と変質」、総合研究(A)、研究代表者・岡道男、1982～1983年度
- 3 「古代ローマの「死」についての総合的研究」、一般研究(B)、研究代表者・長谷川博隆、1988～1990年度
- 4 「ギリシア・ローマ神話の宗教性と文芸性の研究」、総合研究(A)、研究代表者・岡道男、1990～1991年度
- 5 「平家物語の比較口誦詩論的研究」、一般研究(B)、研究代表者・山下宏明、1992～1993年度
- 6 「古典学の再構築」、特定領域研究、研究代表者・中谷英明、1998～2002年度

#### 研究プロジェクト(分担参加)

- 1 「グローバル化時代の多元的人文学の拠点形成」、京都大学21世紀 COE プログラム、文部科学省、2002～2006年度
- 2 「地球文明時代の世界理解と新しい倫理・人間観の研究」、東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所共同研究プロジェクト、2004年8月～2007年3月
- 3 「総合人間学の構築」、東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所共同研究プロジェクト、2007～2009年度
- 4 「テキスト布置の解釈学的研究と教育」、名古屋大学グローバル COE プログラム、文部科学省、2007～2011年度

#### その他の外部資金による研究

「古代地中海文明研究」、富士フィルムイメージング株式会社からの奨学寄付金、2005年度～

#### 学会活動

- 1 名古屋大学西洋古典研究会主幹、1991年度～現在
- 2 日本西洋古典学会委員、1995年度～現在
- 3 地中海学会常任委員、1995～2002年度
- 4 地中海学会編集委員、1995～2002年度

- 5 日本西洋古典学会常任委員、2001～2006年度、2010～2015年度
- 6 日本西洋古典学会編集委員、2001～2006年度、2010～2015年度
- 7 地中海学会アドヴァイザー、2003年度～現在

#### その他の委員会活動

日本学術会議研究連絡委員、1994～1996年度

日本学術振興会科学研究費委員会専門委員、2001～2002年度